令和４年度　学力向上プラン

学校名　中央区立泰明小　　学校

学校の教育目標

○よく考える子ども　　○思いやりのある子ども　　○たくましい子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

児童が、「何のために学ぶのか」を認識し、「何を学ぶのか」が明確に理解でき、「どのように学ぶのか」を考えることができる授業の具現化に努める。そのために、『主体的、創造的な深い学びの実現を図るために、経常的な教材研究、教材開発の推進』をキーワードとし創造性に富んだ授業づくりに励むことを、泰明小学校としての教育実践目標とする。

令和４年度「学習力サポートテスト」や令和４年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	令和４年度「学習力サポートテスト」の結果は、全６領域目標値を上回り、全国、区の平均値も上回っている。しかし、叙述の深い読み取りや表現力については、個人差がある。また、文章を書く問題については、一歩深く読み込むことを一部の児童が敬遠する傾向が見られる。自分の考えを表現することに不得手な児童が一定数いる。さらに、６年生「我が国の言語文化に関する事項」は、平均正答率が22%で目標値、全国、区の平均値を下回っている。	作者や筆者の意図、問題意識にまで踏み込む深い読み取りまでは至らない児童がいる。通塾に割かれる時間が多く、帰宅すると動画視聴に没入する児童も多くいる。そのため、読書、新聞やニュース、さらに日本の言語文化などに触れる機会が少ないことも要因と考えられる。
算　数	令和４年度「学習力サポートテスト」の結果は、全４領域目標値を上回り、全国、区の平均値も上回っている。しかし、理由や説明を自分の言葉で表現する問題の誤答が多く見られる。この傾向は、全国学力・学習状況調査の結果からも３年連続で見られた。図形の作図についても課題が見られた。全体的に空間認知能力を必要とする内容については、やや苦手な児童が多い。	問題解決までの過程を考える経験が少ない。公式は知っているが、公式の成立理由を知らなかったり、機械的に暗記したりしている児童も多い。作図は、技能を高めるための活動が少ないことが要因と考えられる。
社　会	令和４年度「学習力サポートテスト」の結果は、全５領域のうちほぼ全て目標値を上回り、全国、区の平均値も上回っている。しかし、「産業と情報との関わり」など、特定の問題領域では、区の値を下回った。活躍した人、働く人々の姿を想像し共有することを要する問題に課題が残った。	資料の読み取りは、社会的な事象への興味・関心の低さが起因している。活躍した人々が活躍した姿を知り、働く人々の努力や苦労を想像する機会や経験の少なさも要因と考えられる。
理　科	令和４年度「学習力サポートテスト」の結果は、全２領域で目標値を上回り、全国、区の平均値も上回っている。しかし、説明を求められる問題については、無解答の児童もいる。自分の考えを表現することが不得手な児童が一定数いる。	自然体験が不足しているため、実体験を根拠にした説明が苦手になっていると考える。実験が既有の知識の確認の場と化し、予想や考察する力が育ちにくい点も考えられる。

英　語	令和４年度「学習力サポートテスト」の結果では、全て目標値を上回っている。基本的な表現を推測しながら聞く・読む、そして語順を意識しながら書くことについては個人差が見られる。	間違えることに抵抗のある児童が英語の活動に消極的になる傾向がある。また、読む・書くについては、まだ苦手意識や不慣れさがあると考えられる。
体　育	体力テストの結果は、概ね良好であった。男女とも投能力については前年度より若干の微減か横ばいであった。柔軟性については向上が見られたが、高学年の若干数で持久力の低下傾向が見られた。また、中学年男子も全体的に体力の低下傾向が見られた。	体力テストは概ね好成績といって良いが、中高学年からの通塾開始に伴う、運動量の減退や、好むスポーツばかりを志向する傾向は運動経験の幅を狭くしていると考えられる。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	深い読み取りや幅広い表現力については、令和４年度の校内研究の中心環にも据え、研究の推進をもって改善にあたりたい。まずは、文章読解の力を確実に付け、読む力に関わる得点率を引き上げる。文章を書くことについては、行事を通して感謝を伝える手紙や国語以外の学習の中でのワークシート、音楽や図工での鑑賞における、本人の解釈をともなう記述などでも課題を意識して記述させる。既習の漢字や言語の表現についても「ミライシード」なども使い９０％以上の正答率を目指し、語彙力の増強を図る。
	算数	問題解決までの過程を考える経験が少ないので、学校では公式や法則、決まりなどについて、公式の成立理由、原理・原則を解きほぐし、根元から理解し直す機会を作る必要がある。作図における技能は、定規、コンパス、分度器などを用いた正確な図の描き方を習得させつつ、立体図形を展開させたり、組み立てたり、予想したり思い描いたことを踏まえて、問題に着手させる。
	社会	社会的な事象への興味・関心の低さを向上するために、低学年の生活科では、銀座の町の商店・店舗を探検し、中学年では町を歩いて巨大マップを作成、地形や伝統行事の学習をする必然性を感じさせながら、活躍した人々、働く人々の努力や苦労を学ばせていく。
	理科	柏学園での自然タイアップ学習を大切にし、中学年での植物・昆虫、天体などの学習事項を知識と体験で有機的に結び付けていく。また、考察することを理科の授業では眼目に据え、知り得た実験結果から何が分かったのか、掘り下げる学習を展開していき、論理的かつ科学的に実験結果をまとめていけるように指導する。
	英語	ＩＣＴを使った音声リピートや、ＡＬＴとのコミュニケーションの機会を生かし、会話の機会を増やし一部に見られる不慣れさを解消する。
	体育	朝の運動の時間として設定していたコロナ禍前の泰明タイムを復活させ、投運動と持久力の改善、向上を目指す。シャトルランに関しては、１年生男女２０回、２年生男女２５回、３年生男女４０回、４年生男女４５回、５年生男子５５回女子４５回、６年生男子６５回、女子５０回を春先だけではなく、年間通じて達成できるように目指していく。
②授業改善		校内研究では「深く考える」、「考えたことを表現する」ことをテーマにし、年間を通じて体験型の学習やアクティブラーニングを取り入れる等、授業内容を工夫し、児童が「学ぶ喜び」を感じられる指導技術を磨く。また、伝え合い活動を充実させ、考えを広げる・深めることを意識していく。

③家庭との連携	家庭学習は、基礎的・基本的な内容の定着を図ることを目的とし、宿題提出率は全児童１００％を目指す。また、年間を通じて地域と連携した活動について協力・参画を促す。
④体力向上	体力テストの分析結果より課題の見えた項目については、区の平均以上を目指す。日常的活動として縄跳びの奨励や「泰明タイム」、「泰明マラソン」等の体育的行事をより充実させる。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	・読む力の育成、文章読解力の得点率の引き上げ。 ・書く力の育成、行事を通した感謝を伝える手紙の作成。各教科のワークシート、音楽・図工の鑑賞場面での書く場面の設定。総合的な学習の時間におけるプレゼンテーション能力の育成。 ・既習の漢字や言語の表現の習得。「ミライシード」90％以上の正答率。語彙力の増強。 ・日本の言語文化に触れる機会を増やす。
算数	・公式の成立理由についての根元から理解の再構築。 ・作図技能向上のための定規、コンパス、分度器などを用いた教具の確実な使用方法の育成、正確な作図方法の習得。 ・立体の展開、組み立て、見取り方から空間認知能力を育成する。 ・既習の計算や文章問題の理解の習得。「ミライシード」９０％以上の正答率。 ・習熟度別学習を充実させ、個にあった学習を進める。
社会	・低学年生活科での銀座の町の商店・店舗探検。 ・中学年社会科での町歩きと地図作成。 ・中学年社会科での地形や伝統行事の学習。 ・中学年社会科での先人の活躍、働く人々の努力や苦労の学習、地域学習のまとめ。 ・既習の知識や用語の理解の習得。「ミライシード」９０％以上の正答率。
理科	・柏学園での自然タイアップ学習。実体験の充実。 ・低学年生活科での植物・動物、昆虫などを探し観察する自然体験学習。 ・中学年理科での柏学園、プラネタリウムなどを生かした天体についての学習。 ・高学年理科での考察する学習、結果を掘り下げる学習。 ・高学年理科での論理的かつ科学的に実験結果をまとめる力の育成。 ・既習の知識や法則、実験器具の正しい使い方などの理解の習得。「ミライシード」９０％以上の正答率。
英語	・ＩＣＴを使った音声リピート ・ＡＬＴとのコミュニケーションの機会を生かした、会話体験。 ・ＡＬＴからのリスニングテスト。
体育	・泰明タイムの復活。主に投運動と持久力の改善、向上を目指す。 ・泰明マラソンに向けたマラソン練習、縄跳び練習による持久力の向上。

②授業改善	
取組Ⅰ	管理職による授業観察を行い、児童が意欲的に学習に取り組める授業構成や指導技術であるかを判断し、よりよい授業を目指して、必要に応じて指導助言や資料提供等を行う。
取組Ⅱ	学校評価の児童、保護者による教師の授業における「理解」、「分かりやすさ」に関して、８０％を上回るようにする。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	銀座を中心にした地域と連携した活動について、保護者の協力を仰ぎ、数多く参加してもらうことを通して学校の経営方針や教育活動の理解を図る。より充実した活動の実現を目指す。
取組Ⅱ	学校評価等を通して、本校の教育活動への意見を吸い上げるとともに、その結果と対策をホームページや保護者会で公表する。家庭学習の徹底（９０％以上）、挨拶や身だしなみなどの基本的な生活習慣（９０％以上）の到達を目指す。

④体力向上	
取組Ⅰ	本校の特色ある教育活動の「泰明マラソン」やマイスクールスポーツの縄跳び指導については、コロナ禍での取り組み方を工夫し、楽しみながら体力を向上させるようにする。
取組Ⅱ	上述の通りシャトルランなどについては学年ごとに目標平均値を設定し、到達を目指す。体力テストの結果を基に、児童の運動能力と課題の実態を具体的に把握するとともに、効果的な指導方法や技術の習得の仕方を学ぶ体育実技研修を適宜設ける。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	校内研究を通して、深い読み取りや幅広い表現力の育成につながった。ワークシートを工夫し、書く力を伸ばすことができた。他教科においてもワークシートの活用で同様の成果をあげている。 また、行事ごとに感謝の気持ちを手紙にすることで、自分の思いを表現できるようになってきた。	書く力には個人差が見られる。国語の教科書の「言葉の宝箱」を活用し、語彙力を伸ばすとともに実体験をもとにした文章を書く経験を増やす。「文章を書きたい」という意欲につなげるようにする。 感謝の手紙の内容が同様のものになってきた傾向が見られる。定型文は身に付いたので、エピソードや思いなどを入れられるように指導していく。
	算数	タブレット学習でドリルソフトを活用し、基礎基本の定着が図れた。特に苦手分野の復習にも効果を得られている。 授業は習熟度別学習を展開し、個に応じた学習を進めた。発展コースは公式を覚えるだけでなく、その成立理由、原理・原則を理解し、説明できるようにした。じっくりコースは、少人数で、定規、コンパス、分度器の使い方を丁寧に指導し、作図の正確さを向上させた。	学力の個人差が見られる。公式を機械的に覚えている児童が一定数いる。また作図においては、コンパスの使い方を覚えても、実際の問題に取り組む際に活用の仕方に課題がある児童が多くみられる。定規、コンパス、分度器を使う理由やその特性を改めて確認し、定期的に問題に取り組ませていく。
	社会	低・中学年では、銀座の街を生かした校外学習ができた。各学年で、商店、建物、人、交通、土地など、様々な観点で街探検をすることによって、発達段階に合わせた気付きをもたせ、実感の伴った理解につなげることができた。	中学年では、「先人の活躍」において、実物を用意することが難しく、児童の体験が少ない授業展開になってしまった。「本の森ちゅうおう」を活用し、昔の道具の実物を見たり触ったりできる機会を設定していく。 高学年は、用語の暗記になりがちなので、資料から自分なりの考えを導くことができるような課題設定をしていく。
	理科	理科支援員との連携を図り、充実した理科実験を行うことができた。 また、柏学園での自然のタイアップ学習や教育センターによるプラネタリウムなど、児童の興味関心を高めながら学習を進めることができた。	論理的かつ科学的に実験結果をまとめたり、説明したりすることが苦手な児童が見られる。実験の意図をしっかり把握して取り組めるように、児童に実験方法を考えさせたり、試行錯誤させたりして、科学的な視点をもたせられるよう授業改善していく。

	英語	ICT による音声リピートや ALT とのコミュニケーションによって、児童は英語に親しむことができた。歌やゲームなど、聞き慣れない言語学習にも関心をもって取り組むことができている。	単語を正しく覚えることが難しく曖昧な表現になってしまう児童が見られる。また、英語に対して苦手意識をもっている児童もいるので、個別対応をしながら英語の楽しさを体感できるようにする。
	体育	今年度は泰明マラソンが実施できたので、持久走に対する意識が、校内で高まった。休み時間や体育の時間に、マラソンカードを活用しながら練習し、持久力の向上が図れた。 保健の学習では、ワークシートを工夫したり、実体験に伴った話合いをしたりすることによって、健康について深く理解させることができた。	令和４年度の体力テストは、中学年が区の平均値を下回る項目が多かった。朝の泰明タイムをより充実させ、投力や持久力の向上を目指す。 体育の単元計画を見直し系統立てた学習を６年間でできるようにする。また、体育指導補助員と連携を図り、効果的な指導をしていく。
②授業改善		児童が学習に意欲的に取り組めるように、単元計画に出前授業や校外学習を効果的に設定することができた。 研究授業の協議会では伝え合い活動を中心に改善点を協議し、自分の授業に生かすことができるようになった。 学校評価の保護者アンケートでは、「教師の授業の分かりやすさ」「児童の理解度」は、どちらも８０％以上という結果で年度当初の目標を達成している。	引き続き、児童一人一人が「調べたい」「やってみたい」と思えるような課題の提示の仕方を工夫し、主体的に課題を捉え、取り組めるような授業を構築していくことが課題である。計画的に出前授業や校外学習を取り入れ、本校の特色を生かした指導を継続する。
③家庭との連携		保護者が来校し、児童の様子を参観する機会は少なかったが、タブレット端末のGoogle Classroomや学校ホームページ、学校行事を通して、児童の様子を伝えることができた。 学校評価では、家庭学習の徹底は７８％、基本的な生活習慣は８３％という結果となり、年度当初の目標は達成されなかった。	年度初めに、家庭学習の意義や基本的な生活習慣について、児童と保護者に再度確認する必要がある。泰明小学校のルールを軸にして、全職員で指導にあたる。 今後もオンラインによって児童の様子を伝える場合、接続や見せ方をさらに安定させて情報の発信をする必要がある。また、地域行事には積極的に教員も参加し、保護者との交流を深める。
④体力向上		体力テストの結果は、女子は区の平均以上となった項目が多かった。男子は、中学年が平均を下回った項目が多かった。コロナが始まった時期の入学で、運動機会が減ったことが原因と考えられる。 今年度は、泰明マラソンが実施できたので、持久走の練習を充実させることができた。	中学年の体力向上に力を入れる。朝の時間に運動を行う「泰明タイム」で、基本的な運動習慣を付けるとともに、投力の向上を図る種目を定期的に取り入れていく。 マイスクールスポーツの持久走では、実施方法を見直し、児童が意欲的に運動できるようにし、体力向上を図る。